

島根県公立
小中学校
教頭会

会報

R7.3



今年度を振り返って

島根県公立小中学校教頭会

会長 木山 晴夫

(松江市立宍道中学校)

令和六年度の島根県公立小中学校教頭会の活動も県内の会員の先生方のご協力により滞りなく終わろうとしています。皆様のご協力に深く感謝申しあげます。

各部の活動について

本会は、五月十七日（金）の理事会からスタートしました。

要請部は、昨年度作成した要望書をもとに九月二十七日（金）に東京において県選出国會議員に陳情をいたしました。あいにくこの日は自民党総裁選挙と日が重なっており、全ての議員の皆様にお会

いすることはできませんでした

が、お会いできた議員さんは熱心に話を聞いてくださいました。また、今年度の実態調査結果や、十月十日（木）の要請委員会の協議内容を今年度版の要望書としてまとめ、十二月十七日（火）に「県教育委員会との教育懇談会」を行いました。県教育庁から四名、教育センターから一名の方にお出かけいただきました。お忙しい中、ありがとうございます。また、要請委員の皆様にも大変お世話になりました。ありがとうございます。

研究部は十二月十日（火）に研究委員会を開催しました。本年度、中国大会山口大会で提言発表をされた二郡、来年度中国大会で提言発表担当の二市、来年度江津市にお世話になる県大会で提言発表を担当される三市三郡に発表を

していただきました。いずれも示唆に富んだ提言発表でした。

庶務部においては理事会での議事録作成などの記録を担当していただきました。

広報部は、ホームページの更新、年二回発行される会報の作成を担当していただきました。

調査部は、六月に実施した「全国公立学校教頭会実態調査」の「島根県集計結果」の統計分析を行い、報告書を発行して県内の教頭先生方にお配りしました。

いずれの部も日ごろからお忙しい先生方に担当をしていただき、大きなご負担をおかけしました。

チーム島根として様々な市郡に仕事を分担していただきましたが、

会員のみなさまから多大なるご協

力をいただいたおかげでこの一年間を乗り切ることができました。大変お世話になり、ありがとうございました。

おわりに

この一年間、島根県公立小中学校教頭会会長として様々な活動に携わらせていただきました。

その中で、初めて知ること、改めて深く考えさせられること、教頭会の役割など多くのことを学び、考えを深めることができました。また、それぞれの地域で違う苦労、または同じようなことで悩んでおられる教頭先生など、中国ブロックや全国の教頭先生方と話を

をする中で改めて教頭の役割の大きさや重さを感じました。このような経験ができたことに感謝し、これからも日々の職務に励んでいこうと思います。

皆様もご自愛され、これからもチーム島根の一員として頑張っていきたいと思います。

各市郡教頭会の活動状況

松江市

会長 花井 泰夫

(松江市立美保関中学校)

◇松江市教頭会について

松江市公立学校教頭会は中学校部と小学校部がそれぞれ分かれて活動しており、中学校部は十八校十九名の部員が在籍しており、県都を支える仲間達と連携を密に会を運営しております。そんな松江市教頭会(中学校部)について、活動の様子や私の目から見た特色などをお伝えしたいと思います。

◇緊張感ある会議

定例会には必ず市教委からゲストが来られ、校長会で伝えられた内容の確認はもとより、人権に関わること、特別支援教育に関わることなど多岐にわたって情報を提供していただきます。学校の中核を支える教頭として、身が引き締まる三十分間です。

◇県公立小中学校教頭会の中核を担う方たち

松江市中学校教頭会には、県教頭会の会長、事務局長、研究部長が在籍しており、随時、県教頭会の動きが入ってきます。そういう

意味で「県に近い」のが松江市の教頭会ではないでしょうか。

◇一年を振り返って

松江市に帰ってきて驚いたことは、月例会への出席率がとても高いことです。重要な情報を逃すことへの恐れからか(？)、皆さん休まず出席されます。半面、開催される時間が約一時間と短く、何か新しいことに取り組む余裕がないのが残念です。前任地の大田市の時は、ゲストを招いたり、教頭自身が講師を兼ねたりしながら研修を進めてきました。自分で考え、学んでいく…自主的な学びを大切にしたい会でも好きでした。しかし松江市の教頭会ではそれをやる時間的余裕がありません。半面、市教委や校長会の考え、動きがよく分かるという長所もあります。どちらが良いというわけではなく、それぞれの市で教頭会に何が求められているのかを示していると思います。この一年、定例会の会で出来ることは限られているように感じました。それだけに様々な研修に積極的に参加し、自己を磨いていく必要があると感じています。常に学び続け、それを現場に還元できる教頭、そして教頭会でありたいと思っております。

安来市

会長 津田 昌彦

(安来市立第三中学校)

安来市小・中学校教頭会は、小学校十七名、中学校五名の計二十二名で組織し、活動しています。定例の教頭会は年五回計画されており、市教委からの情報提供や各種研修、各中学校区内の情報共有等を行っています。昨年度から数年ぶりに懇親会が再開され、今年度は毎学期開催し、会員相互の親睦を深めるとともに、多岐にわたる情報交換を行っています。

会員は、研修部と厚生部のいずれかの部に所属し、それぞれに教頭の専門性・資質の向上をめざして活動しています。特に研修部は、来年度の県公立小中学校教頭会研究会(江津大会)第三部会での提案発表に向けて、部員で協力して準備を重ね、教頭会全員で取り組む体制を整備しました。今年度の研修内容については次の通りです。

◇今年度の主な研修◇

(六月)

・研修会

講演「校務DX化に向けて」

講師 安来市教委指導主事

(八月)

・研修会

講演「校務DX化推進・

情報セキュリティ研修」

講師 川邊貴英氏

(株) NTT

EXCパートナー

事例発表 十神小学校

この他にも、十一月の定例会では、来年度の県教頭会の発表に向けて「プレ発表会」の時間をとり、発表を聞いた後、内容について全員で意見交換したり、グループに分かれて市内全教職員対象のアンケート内容等について検討したりしました。研修部だけでなく、会員で発表に向き合うことで、会員の課題意識の高まりを感じました。

また、全国公立学校教頭会研究大会(高知大会)には、参集で一名、オンラインで二名が、また中国地区公立学校教頭会研究大会(山口大会)には、参集で二名、オンラインで七名が参加し、研修の成果を定例会で共有するなど、積極的に会員のスキルアップに努めています。今後は、会員数の減少が予想されますが、会員同士の繋がりを強め、より充実した会にしていきたいと思っております。

大田市

会長 石田 雅裕

(大田市立大森小学校)

大田市小・中学校教頭会は、小学校十五名、中学校六名の計二十一名で活動を行っており、委員は、研究推進部・研修部・編集部・三つの専門部のいずれかに所属し、毎月一回の頻度で定例会を行っております。会の中では、各専門部が共有すべき内容を伝達したり、中学校区ごとの学校間で情報交換を行ったりしています。また、会の最初の所では、教育委員会をはじめ、様々な方々にお話をしていたいでいます。今年度の一学期には、五名の新しい会員の方が入られたこともあり、市教委より校務支援システムの説明や共同学校事務室より学校管理・学校事務上において知っておくと役に立つ内容などについてお話をさせていただきました。新規会員の学びとしては、また引き続きの会員にとっては再確認の場として有益な時間となりました。二学期は市教委担当者より生徒指導や特別支援教育、服務規律などについて学ばせていただきました。また、鳥根県教育センターの出前講座・教育相談スタッフの羽根田 崇様による「保護者と学校のよりよい関係

づくりをめざして」、学校法人湘南学園学園長 住田 昌治様による実践を踏まえた「働き方改革」をテーマとした講演で研修を深めました。

このように、様々な形態による学びの場を設定することで教頭としてのスキルアップが図られ、学校運営にも反映していけると考えています。

来年度は、中国公立学校教頭会研究大会で、「校長・教頭の職務に関する課題」をテーマとした発表をすることになっていきます。そのことを受けて、昨年度より『教頭の職務に関する専門性の向上による各校の学校運営の充実に向けた取組』外部機関および専門家を招いての計画的な研修をとおし『(案)と研究主題を決め、前述の通り教頭会で計画・実施している研修会等の内容を中心に発表できればと考えています。今後このような取組を積み重ねたいと考えていますが、大田市教頭会の現状としては、教頭業務に加え、担任業務を抱えている方々がおられ、なかなか全員そろって定例会を開催することが難しい状況にあります。何とかこの教員不足の現状が改善され、そろって研修する機会が増えていくとよいと思っております。

目的志向で

「正解がない」を楽しむ

全国大会(高知大会)に参加して

益田市立豊川小学校 田原 俊輔

昨夏、高知県立県民文化ホールを全体会場として全国公立学校教頭会研究大会(高知大会)が開催されました。本大会では参集型とオンライン型を併せたハイブリッド型で開催されたおかげで、より多様な地域からの参加がありました。「未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり」という大会主題のもと、全国の公立小中学校の前向きかつチャレンジングな取組が数多く報告され、限られた時間ではありましたが、対話をとおして活発で有意義な協議が展開されました。

さて、近年の社会全体の変化に伴い、子どもたちだけでなく私たち大人、教職員を取り巻く環境も大きく変化しています。「先行きが不透明で、将来の予測が困難」な時代を迎えた今、経済やビジネス、個人のキャリアに至るまで、あらゆるものの複雑さが増しています。今まで積み重ねてきたことやスタンダードだと思われていたことが、ここに来て崩れていつているように感じることもさえないあります。

このような時代を生き抜いていくために必要な資質や能力とし

て、「行動力」「コミュニケーション能力」「ポータブルスキル(業種や職種が変わっても活かせるスキル)」などの言葉が度々メディアに登場します。分科会でのグループ協議の中では、それらを子どもたちに育んでいくため、学校教育には何が求められているのか、それをどのように具現化していくのかをお互いに問い直す場面がありました。

「多様な他者と協働しながら、正解のない課題に粘り強く取り組んでいく」「まずやってみる」「諦めなければ『失敗』ではない」姿を、子どもたちに求めるより先に、まず私たち自身が率先垂範し、行動していくことが重要なのではないかと、このことを改めて強く感じる機会となりました。

本大会のサブテーマには「夢や志をもち、協働して未来を創る子どもを育成するチーム学校づくりの推進」と設定されています。地域に在る学校として、どのような未来を描き、どんな子どもたちを育んでいくために、私たちは学校教育諸活動に向き合っていくのか。また、その実現のためにどんな方々と協働して「チーム学校」づくりを進めていくのか。そのような「正解のない」課題に対して、夢や志をもって取組を紡いでいく環境を、校長の掲げる学校教育目標のもと、仲間とともに笑顔で創っていきます。

中国大会(山口大会)に参加して

久保田 康司 (奥出雲町立布勢小学校)

十一月二十二日(金)に第四十四回中国地区公立学校教頭会研究大会が山口市を会場に行われました。

大会の午前中の記念講演では、『ファーストペンギンのココロ』を束ねるチカラ』と題して、株式会社GHI B L I代表取締役 坪内 知佳さんのお話を聴きました。坪内さんは、ドラマ「ファーストペンギン!」の主人公のモデルとなった方で、山口県の萩大島船団丸という会社を立ち上げた方です。地元の漁師さんからの反発にあいながらも、アイデアと行動力で周囲の人の心をつかみ、強い絆を育んでいき、会社を成長させていくお話でした。リーダーとして、先を見据え、仲間と真摯に向き合い、信頼を得ることの大切さを教わりました。

午後からの分科会では、第六分科会「副校長・教頭の職務に関する課題」に参加しました。「学校教育目標の達成に向けた教職員組織の活性化」と題して、仁多郡教頭会が提案発表を担当しました。仁多郡教頭会は、この大会での提案発表に向けて、数年前より教職員の働き方改革の推進及び教職員

組織の活性化について共同研究に取り組んできました。試行錯誤を繰り返しながら、今年度は高橋伊尚教頭先生(奥出雲町立三成小学校)を中心に研究を進め、これまでの取組を発表しました。

発表では、PDCAサイクルを回しながら持続可能な働き方改革を模索した取組として、町内教職員を対象に行ったアンケートをもとに、個人でできる働き方改革二十二の取組にまとめ、紹介しました。また、「ワーク・ライフ・バランス」の整った状態について意見交流も行いました。さらに、新たなストーリーとして、「やりがい」や「充実感」をもった教職員組織にするための教頭としてのアプローチについての提案をしました。

発表後の協議や指導助言から、学校教育目標の達成及び働き方改革の推進、さらにはキャリア自律に向けて、教頭としての仕掛けづくりの大切さと同時に、それが教頭としてのやりがいにつながるということを学びました。

この分科会に参加して、働き方改革の推進や教職員組織の活性化に向けた取組を意見交換することにより、教頭としての役割やアプローチの仕方について研修を深める機会になりました。

大野 高裕 (飯石郡飯南町立志々小学校)

私が所属する飯石郡小中学校教頭会は、十一月二十二日(金)に開催された第四十四回中国地区公立学校教頭会研究大会(山口大会)の第五分科会において実践発表を行いました。

研究を進めるにあたり、本町の定例の教頭会において、教頭の役割として行ってきた業務と、第五分科会の研究課題「教職員の専門性に関する課題」とがどう関連づくか整理することから始め、昨年度から共同研究を行ってきました。

そして、大会当日は第五分科会会場、オンラインで計百十三名、指導助言者二名の皆様に「教職員の協働体制づくりと学校参画意識の向上のための教頭の役割」保小中高一貫教育の協働体制づくりの取組を通して」と題し、提言しました。

提言ポイントは以下の二点です。
○保小中高一貫教育の協働体制を構築するために積極的にICTを取り入れる。

○教職員の参画意識を高めるために、小さな町の小さな学校のように、小さな町を、連携して行ってき

具体的には、連携して行ってき

た活動をICTを活用して振り返り、PDCAのC(評価)の充実を図ること、連携活動の目的の共有と取組の共通理解を図るために熟議の場を設定すること、ICTを活用して小中の双方の方向の情報交換を行うことを通じて教職員の協働体制づくりと学校参画意識の向上を目指しました。

参加者からは、「熟議の場での話し合いにより、他校同士の教職員が主体的に参画する様子が見られた」、「小規模校のよさを活かした実践だったが、ICTを効果的に活用することで小規模校でなくても活用することができる」等の理解をいただきました。

指導助言者からは、本町の提言でもふれた目的を明確にすること、さらに、実践を通してどうだったかを振り返り、改善につなげていくことの重要性について助言がありました。その際、どう変容したのか、数値指標を活用し、成果を明らかにすることで教職員一人一人の当事者意識が高まることを学びました。

大会を通して、貴重な講演や他県の教頭先生方との交流により、大きな刺激とエネルギーをいただきました。



要請部活動状況

要請部長 小澤 正則

(松江市立鹿島中学校)

◎要請担当者研修会

【期日】七月十二日(金)

【開催方法】オンライン

○全公教調査結果報告

○調査結果に関する考察

講師 東京大学 教授

勝野 正章氏

演題 「全公教の調査結果の分

析・考察と今後の要請活

動について」

◎全国要請推進部長会

【期日】九月二十六日(木)

【会場】都市センターホテル

(東京都千代田区)

本年度は、ハイブリット型での

開催でした。文部科学省初等中等

教育局財務課課長補佐 北川 雅

崇氏から、令和七年度教育関係概

算要求についての説明がありました

た。人の配置に関わる箇所につい

て、丁寧にご説明をいただきました

た。また、日本大学文理学部教育

学科教授 末富 芳氏からは、「学

校安心ルールをつくらうー」こども

と大人で実現する学校の安全・安

心」と題して、ご講演いただきました

した。こども性暴力防止法、こども

の貧困解消法の成立に伴い、学

校安心ルールをこどもと一緒に

作っていくことの必要性について

学びました。

翌二十七日(金)には、島根県

選出の国会議員の皆様に対して要

請活動を行いました。当日は自民

党総裁選の日と重なったこともあ

り、直接お会いできた議員はお二

人でしたが、要請の趣旨をよくご

理解されており、しっかり応援す

ることを約束していただきました

た。

◎第一回要請部正副部長会

【期日】六月十一日(火)

【会場】松江市立鹿島中学校

○活動計画の作成、確認

○各市郡教頭会アンケート作成と

役割分担

◎第二回要請部正副部長会

【期日】八月二十三日(金)

【会場】松江市立鹿島中学校

○各市郡教頭会からのアンケート

取りまとめ

◎島根県教頭会要請委員会

【期日】十月十日(木)

【会場】サンラポーむらくも

○県教頭会「教育条件に関する要

望書」の内容について、市郡代

表要請部員による協議

◎島根県教育委員会との教育懇談会

【期日】十二月十七日(火)

【会場】市町村振興センター

【出席者】県教育委員会から五名

県教頭会から九名

【懇談会の内容】

・定年延長、再任用における給与

水準の見直しについて

・次期学習指導要領改訂に向けた

総授業時数削減等「柔軟な教育

課程」の実現について

・不登校・別室登校児童生徒数の

増加に伴う、支援員の配置数・

勤務時間数増について

・指導補助系非常勤講師の配置

数・勤務時間数増について

・特別教室を含めた全ての教室及

び体育館への空調設備の設置に

ついて

・ICT環境の整備について

☆「教育条件に関する要望」を県

教育委員会に手交しました。

☆「教育条件に関する要望」並び

に島根県教育委員会からの回答
は、県教頭会ホームページに掲
載しております。

◎活動を振り返って

今年度も県教頭会会員の皆様方

から「教育条件に関する要望」に

ついての貴重なご意見をいただき

ました。そして、それらを「R6

要望事項」として取りまとめ、

十二月十七日(火)に県教育委員

会に手交しました。各市郡要請委

員の皆様には「要望事項」の取り

まとめにご協力いただきましたこ

と、この場をお借りしてお礼申し

あげます。

島根県教育委員会との懇談の場

では、教育委員会の皆様から学校

に寄り添い、その声を真摯に聴

き、できるだけ力になりたいとい

う熱意を感じたところです。我々

教頭会も、ただ要望を出し、結果

を待つのではなく、教育条件の改

善に向けて現場なりの努力をする

必要があると感じました。

今後とも島根県教育委員会との連

携をさらに強め、諸課題の解決に

向けて、本会の活動をさらに充実

させていきたいと存じます。あり

がとうございました。

研究部より

研究部長 前島 美佐江

(松江市立義務教育学校玉湯学園)

本年度も研究部の活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。第十三期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり」の二年目として、研究をさらに深めるべく、各大会が開催されました。

一 今年度の取組

○第六十六回全国公立学校教頭会研究大会(高知大会)

・期日 七月三十一日(水)

・八月一日(木)

・参加による参加 十二名

・オンライン参加 二十名

○第四十四回中国地区公立学校教頭会研究大会(山口大会)

・期日 十一月二十二日(金)

・参加による参加 三十二名

・オンライン参加 七十五名

・本県の提言発表

【第五分科会】

教職員の専門性に関する課題

提言者・星野 寿幸 教頭

(飯南町立頓原中学校)

保幼小一貫教育の協働体制づくりの取組を通して

【第六分科会】

副校長・教頭の職務に関する課題

提言者・高橋 伊尚 教頭

(奥出雲町立三成小学校)

学校教育目標の達成に向けた教職員の活性化

○鳥根県教頭会研究委員会

・期日 十二月十日(火)

・内容 全国研究部長会等報告

研究大会発表割当

今後の研究大会について

提言発表および協議

昨年につき、半日開催とし、オンライン併用で開催しました。活動報告等につき、提言発表について協議しました。前半は、前述の山口大会での提言を発表いただきました。後半は、次年度の中国大会(岡山大会)と県大会(江津大会)での発表予定の提言について協議を行いました。協議では、提言発表に係る各市郡の取組について紹介いただく等、研究部員の皆様にお力添えをいただきました。

二 来年度の取組

○第三十六回鳥根県公立小中学校教頭会研究大会(江津大会)

・期日 十一月十四日(金)

・会場 江津市総合市民センター他

○第六十七回全国公立学校教頭会研究大会(茨城大会)

・期日 七月三十一日(木)

・八月一日(金)

・会場 水戸市民会館 他

皆様のご参加をお待ちしています。

調査部より

調査部長 濱野 健一

(美郷町立邑智小学校)

会員の皆様方におかれましては、昨今の働き方改革のもと、学校の組織としての在り方や学校の業務の在り方など、ウェルビーイングの実現に向け、日々様々な工夫をしながら中心となって業務改善、環境整備に取り組んでおられることと思います。また、学校運営、人材育成はもろろんのこと、教育DX、教員不足問題など、学校を取り巻く多くの複雑化・多様化している課題への対応に日々奔走されていることと思います。

そのような中、今年度も、会員の皆様にご協力いただき、実態調査報告書にまとめることができました。心よりお礼申しあげます。

本調査をまとめるにあたり、邑智郡教頭会で分析・考察を行いました。昨年度の調査結果との比較ならびに校種による実態の比較を中心に行い、会員の皆様のおかれている実態について多くのことを読み取ることができました。ぜひご覧ください。今後も、関係機関への要請を行っていきます。各市郡におかれましても、本調査の目的である要請活動に生かしていただければと思います。

事務局より

事務局長 田邊 冬樹

(松江市立本庄中学校)

今年度の本会の事業も、県内の教頭先生方のご協力により滞りなく終わろうとしています。

今年度より様々な会議・研修等も参加型が増加し、オンラインも利用しながら先生方との交流を深めることができました。今後も様々な取組を進めながら有意義な会となることを願っています。

常に多忙な毎日ですが、皆様のご健勝をお祈りいたしております。

鳥根県公立小中学校教頭会事務局長

松江市立本庄中学校

〒690-1114 松江市野原町四二四十二

TEL (〇八五二) 三四一〇五二三 田邊 冬樹

鳥根県公立小中学校教頭会事務局

〒690-0886 松江市母衣町五五

TEL FAX 〇八五二 二七一八六八〇 鳥根県教育会館内

事務局長 黒田 真喜子

(勤務日) 月・金 十八日勤務

(勤務時間) 九時~十五時

ホームページアドレス

<https://simatou5.jp/>

E-mail

simatou5@galaxy.ocn.ne.jp

